

2000年7月1日  
第3巻第3号(通巻11号)

## ハイライト

特集：放送大学と仕事の両立

2 学習と職業の両立

3 気ままともものぐさ

4 友よ挫けるな!

5 エッセイ3編

7 学生団体・サークル情報

# UA 神奈川学習センター なつだより



[イラスト：坂戸五葉]

放送大学神奈川学習センター  
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1  
TEL:045-710-1910  
FAX:045-710-1914  
<http://u-air.net/kanagawa/>

## 放送大学と仕事の両立について

小林 貞二

特集：

放送大学と仕事の両立

私が、放送大学を始めたのは、今から5年前です。社内の40歳研修で、定年までの会社人生や、定年後にいかにか生きるべきかを考えさせられました。そして、仕事以外に何か目標に向かってチャレンジしようと思ひ、放送大学に入学しました。

しかし、働き盛りのこの時期に、仕事と放大(勉強)の両立はなかなか大変なものでした。毎日毎日勉強しないとすぐに次の授業(テレビ/ラジオ)がきてしまいます。また、予定していた面接授業が、仕事の為に何度となく受講できなかった事もありました。しかし、何とか仕事と放大を両立出来た理由は次の事があげられます。

第一に、目標を持つ。そして、それを達成する為のスケジュールを作る。私は、最初に「4年間で卒業する」と言う目標を持ちました。また、その為のスケジュールを作りました。初年度に何単位とる、

次年度は、・・・。また、「初年度に何単位とる」為には、1日何時間勉強しなければならないのかを考え、実施計画書を作りました。QC活動で良く使用するものです。実施計画書をもとに日々の進捗状況をチェックしました。日々の遅れは、週末に挽回する様にしました。月々でスケジュールチェックを確実にし期末のテストに備えました。結果的に、「4年間で卒業する」という目標が5年間のびましたが、目標を持つという事は大切な事です。

第二に、時間を有効に使う。平均すると、毎日1～2時間勉強しなければなりません。しかし、8:30～21:00頃まで、仕事をしている私にとって勉強の時間をみつける事は大変な事でした。試行錯誤の結果、朝の1時間と昼休みの30分を勉強の時間にあてました。毎日毎日計画どおりに行いたのですが、なかなか思うように行きません。その時は、週末の土日で補う様にしました。

『ローマは1日にしてならず』で

す。日々の勉強が大切なのです。

第三に、友人を作ろう。放大に入学と同時に「放友会」へ入りました。入学したときは、10数名いた仲間も今では2～3名です。しかし、その友人とは、テストが終わったときに食事をしながら、情報交換をしています。私が5年間継続できたのも放友会のメンバーのお陰だと思っています。1人で4年間継続するには、大変な忍耐力が必要です。友人を作ることをお勧めします。そのお友達とたまには飲みに行ったり、何処かに出かけるのも良いでしょう。その時、大変なのは自分だけじゃない、仲間がいる。頑張っていこうという気持ちが出てきます。

私が、放大に行き得た最大の収穫は、『自分に自信が持てた』ということです。5年間かかったものの何かを成し遂げた。達成できた、と言う自信です。これからは、この自信をもとに、次の目標に向かってチャレンジしたいと思ひます。

特集：

放送大学と仕事の両立

## 学習と職業の両立に思う

石井 正義

数多くの人生の諸先輩と共に勉学に勤しみ、仕事を抱えながらこの度卒業致しました。3年次編入学で在籍期間が短く、また若輩者の私がこのような感想を述べるのは誠に恐縮ではありますが、同窓会の方からのたつたの依頼でありましたので表題について思ったことを僭越ながら書かせて頂きます。

この大学の大きな特徴は、学生の皆様が社会において他のいろいろな顔を持ちながらも学問に勤しんでいるところだと思います。私もその中の一人であり、日中は通常の仕事をこなし、帰宅後或いは休日に学生として勉強をするという日々でした。私より仕事が忙しい方も数多くいらっしゃると思ひ

ますが、私のエピソードを幾つか書かせていただきます。

通信指導や面接授業におけるレポート提出では、忙しい時期と重なると時間がとれません。仕方なく出張での電車の中でレポートの内容を考え電車の揺れる中書いたことが多くありました。案の定、返却されたレポートのコメントは「もっと字をきれいに書くように」でありました。

また、金曜日は職場の付き合いで宿泊も止むを得ない場合がありました。そのためほとんど一睡もできず、現地からそのまま面接授業に出席。土曜日は何とかもちこたえたものの、日曜日は1時限の途中でめまいがして、まずいと思ひ保健室に

行ったが、施設してあり事務室へ。そのまま意識を失い目が醒めたらセンター長室のソファの上でした。その後は近くの病院へ運ばれました。職員の方には「こういう人は初めてです」と言われてしまいました。やはり仕事の影響が学習にも少なからずありましたが、そこは耐え忍ぶ事こそ肝腎と自分に言い聞かせてきました。でもこの程度の事は日常よくあります。皆様もいろいろ困難があるかと思いますが、学習も又楽しからずや終わってみればよい思い出となり、今後の励みにもなっています。

最後になりますが、4月から発達と教育専攻に再入学しました。

## 特集：

## 放送大学と仕事の両立

## 気ままとものぐさ

藤田 重則

私は物事を計画的に進めるというのがどうも苦手である。そもそも計画を立てるということをあまりやらない。仕事の日程などは手帳に書き込むが、それは会社で決まったことだからそうせざるを得ないのであって、自分から計画している訳ではない。

そんな私だから放送大学での勉強もゆきあたりばったりが多い。通信指導は締め切り前になって慌てて仕上げるのが通常で、ひどいときは間に合わせるために速達ということになる。単位認定試験の日程は半年前からわかっているのに、直前にならないと身が入らず、毎度の「一夜漬け」である。仕事やその他で少しは忙しいこともあるが、それが主たる原因ではない。やはり計画性がないというか、怠け者というか、せっぱつまらなさと身が入らぬ性質なのである。

さて、その「一夜漬け」だが、それでもけっこう何とかできるのである。自分でも不思議なくらい、その気になると短時間の付け刃でもけっこう力を発揮できるのである。これですいぶん単位認定試験をしのいできた。しかし所詮はその場しのぎ、いつも通用するとは限らない。

数学の計算問題はその理屈とともに、計算方法に習熟しないといけな。放送授業の中で、ある先生はこれを「腕力」と言っておられたが、数学は「腕力」を鍛えないといけなのである。また、法律学のようにあらゆる場合を想定し、細部にわたって考察していくようなものはコツコツと頭に入れるしかない。こういうのは「一夜漬け」はきかない。実際、私は数学と法学は単位をいくつも落としてしまった。

「楽しいことにはすぐ取っ付くが、苦しいことは続かない」のも私の性質である。だから授業課目の選択も「おもしろそう」が第一基準

である。特に面接授業は「なるほど」と感心させられる「ちょっと変わった知識」が手に入るので好んで取っている。講師の先生の「経歴と個性」といったものが伝わってくるような「ユニークな授業」が実に楽しい。

「確率論」という科目がある。難しくとっつきにくい科目であるが、面接ではポーカーゲームの「役」のできる確率を計算した。なるほど「ギャンブラーは数学者か」。

「世はコンピューター時代」ということで、「プログラミング入門」という科目をとった。初心者にもプログラムの初歩をやさしく教えてもらえるのだが、「求める解を取り出す式を作ること、アルゴリズムが大切」とか。「何か数学のようですね」と言ったら、「計算機ですから」と、なるほど。

各地の学習センターに出かけるのも楽しみである。集中面接で群馬学習センターへ行ったとき、駅からの途中に広瀬川があり、川沿いに「文学の道」があった。萩原朔太郎や室生犀星など前橋ゆかりの文人たちの文学碑が遊歩道となって続いているのであるが、すっかりそれにはまってしまった。面接授業そっちのけで（一応出席はしましたが）、この遊歩道と、途中にある前橋文学館に入り浸りになってしまった。こんな風だから面接授業のレポートもあまりよい評価をもらったことは無い。大抵は「発想は面白いが、努力が足りない」という確かな評価である。

さて、私の計画性の無さがあらわれた極めつけは、卒業研究である。指導いただく先生も決まり、テーマも決まったとき、先生より、「仕事もお持ちだしたびたび学校にくるのも大変でしょうから、進行状況を2週間に1回ぐらい手紙で知らせてください」とのことだった。

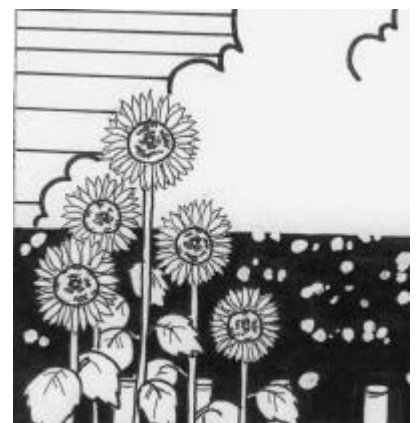
ところが私が先生に手紙を出したのは、卒業研究の期間中に2回きりという大ものぐさ。11月15日が

研究報告書の提出期限だったが、報告書の原案ができたのがその1週間前で、先生に送ったところ、「いまさら訂正する時間はないでしょう」としびしび（私が思うに）認可された。

さて、その研究報告書を清書して、図やら表やらを付け、表紙をととのえて出来上がったのは、締め切り当日11月15日の朝だった。もう郵送という訳にはいかない。とうとうその日は仕事を休んで千葉の本部まで提出に行くというはめになってしまった。

ちなみに卒研のテーマは「原核生物の構造と機能」というものだったが、後日の面接審査の際、「あなたの資料は古いではありませんか」と言われた。手近な資料で作り上げたものだったのだが、ここでも化けの皮がはがれてしまった。

こんな有り様だったが何とか卒業し、こりもせず今度は「社会と経済」を専攻している。しかし性格というものは変わらぬもの、相変わらず行き当たりばったりの行動で、とっている科目は興味本位、単位取得も専攻外のものばかりで、いつになったら卒業できるかわからない状況になっている。けれども、このようにしなければ、続かないことはわかっている。気ままに、ものぐさに、学びつづける。それが私の方法である。





## 友よ挫けるな！

皆川 昭三

誰しも自分の行く手を遮られた経験を多少なりともお持ちでしょう。事前に抑止し自助努力によって前進したい。ところが今日の社会状況は容易には許さない。とりわけ企業を取り巻く不況によって、そこに生きる多くの人々が放り出され、更に次なる道を探し求めてさまよい続けている現状が哀しい。数々の苦汁を舐めつつ耐え忍び、自らを奮い立たせて企業に仕えなければならぬサラリーマン、俗に言う不況とリストラの波は厳しい。揺れ動く経済の見通しがまだ見えぬ労働市場に脅える多くの仲間に、朗報はいつ訪れるのだろう。

実は、私が元勤めていた会社に、当学に在籍する若い二人がいる。会社の都合により工場が閉鎖されて、今は裳抜けの殻と化し、建屋だけが

東京湾の潮風にさらされている。多くの仲間が路頭に迷い、或る者は職場転換で各地に散った。誰もが将来を案じ、自らの可能性を求めて勉強し研修に励んできた。しかし、一度経営再編の荒療治にぶつかると、個々の努力も敢え無く潰されてしまう。二人の学友は転籍の口らしいが、職業と学業の両立はどうなっているやら確たる情報が絶たれている。

経済成長率の乏しい数値を見るにつけ、定職に就けぬ仲間が哀れと思う昨今である。まさかまさかと思いつつ、遠くの火を眺めていた当人に今、火の粉が覆い被さる非情に見舞われる事となって、身も心も拉げ砕かれているのであろう。友よ、挫けるな。やがて嵐も去るであろう。負けるな！ 仕事にも学習にも忍

## 特集：

## 放送大学と仕事の両立

耐と努力が培われてきた君が、放送大学という立派な畑で球根を脹らませてきたではないか。その力を大切にもっと脹らませ、良質の芽が生えるまで頑張ろう。

働きながら学ぶという辛さは、多くの人が語り体験もしている。平穏な勤務のときでさえ学業と職業の両立は難しい。でも、折角ここまでやってきた実績を無にするのは余りにも惜しい。辛抱強くやってくれ！ 私は心から願っている。声援を送る。

君達ばかりではない。リストラ、不遇に喘ぐ学友もどこかで臥薪嘗胆しておられるであろう。どうか挫けずに学業を完うして、いつの日か笑ってくれる事を期待し信じたい。

## エッセイ

## 南極観測の今昔

片岡久雄

毎年11月になると、東京の半蔵門にある東条会館で、南極観測隊越冬隊の壮行会が開かれる。私は南極観測船「宗谷」乗組員として、昭和31年(1956年)の第1次観測隊と翌年の第2次観測隊の輸送業務に従事した。その関係で案内がくるので、なるべく出席するようにしている。昨年は11月4日に開催された。

今回出発するのは、第41次隊で女性1名を含む40名である。第1次隊11名を輸送してから、40年の歳月が流れたことになる。輸送業務も海上保安庁(宗谷)から海上自衛隊(ふじ、しらせ)に移り縁はうすれたが、感慨無量である。同時に自覚しているつもりでも、自分の高齢をあらためて知る思いである。参加者の中には、南極観測業務の実現に努力された各界の人も多く、いろいろなエピソードをきくことができた。

氷に閉じ込められ氷原脱出に苦闘した当時の事情を知る人も少なくなった。「宗谷」には砕氷能力不足という問題があったが、そのほかにも隊員・乗務員をもっとも悩ませたのは、船内の暑さと船の横揺れであった。「宗谷」には冷房装置(エアコン)と横揺防止装置はなかったのだ

る。当時、このような装置はまだ一般化されていなかった。ただ、食糧庫とアイヌ犬の小屋だけは冷房されていたのである。

東京を出航した「宗谷」は、途中シンガポールとケープタウンに寄って南極洋に入ったが、熱帯海域、印度洋を約1ヶ月エアコンなしで航海する苦痛は体験しないと理解できないと思う。室内のチョコレートが溶け変形したぐらいである。いまでもチョコレートをみると「宗谷」の船内生活を思い出すぐらいである。

ケープタウンを出るとまもなく暴風圏に入るが、暴風圏通過の数日間は木の葉のように揺られっぱなしである。62度の横揺れを記録したのも暴風圏通過中である。随伴船「海鷹丸」(水産大練習船)の視界から「宗谷」の船姿が時々消えたという証言もあるぐらいである。船の経験の少ない観測隊員にとっては、死の苦しみにあたりに違いないと思っている。空輸力の不足を補うため、できるだけ「オングル島」(基地建設地)に近づこうとして、氷原の奥深く入ることになったが、その結果帰路厚い氷に閉ざされ、氷原に

立往生することになった。最悪の事態が想定されるようになったとき、ソ連の砕氷船「オビ号」に救助され日本に帰ることができた。ソ連の実力を思い知らされた感じであった。翌年の第二次隊の輸送は、往路で氷に閉ざされ立往生することになったが、この時は米国の砕氷船「バートン・アイランド号」に救助され氷海を脱出した。観測業務は断念、第一次越冬隊員のみ収容し、タロウ、ジロウ等アイヌ犬は基地に置き去りにして帰国したのである。「宗谷」の砕氷能力がもう少し大きかったら氷原の立往生も、アイヌ犬の置き去りも避けられたかも知れないと思うと、実に残念である。

平成9年秋、横浜港に停泊する砕氷艦「しらせ」を見学する機会があった。機関出力、砕氷能力、空輸力、横揺防止装置の設置、居住環境の整備等すべての面で大巾なレベルアップである。この艦で観測隊の輸送業務に従事する人達にとっては、「宗谷」の苦勞など想像もできないだろうというのが、見学後の感想である。

(5 ページに続く)

## エッセイ

## 最近の考古学発掘に想う

小林 公子

## 大和における二つの遺跡・遺物から

1990年代は次々と重要な遺跡・遺物の発掘が行われ、古代史を大きく変容させた年代ともいえる。放送大学の教材も古代史の一部として取り上げられていた考古学が、「歴史考古学」、「発掘された古代日本」と、内容にもかなり変化が見受けられる。そして発掘により、古代の様が次々と明らかになり、その歴史観にも大きな変化が見られるのは頗る興味が深い。最近、二つの大和地方の発掘状況を現地で見られる機会に恵まれたのでその所感を述べてみたい。

まず、「ホケの山古墳」(桜井市箸中、JR桜井線巻向下車徒歩10分)を訪れる。巨大な箸墓古墳の傍にある前方後円墳である。この地方一帯には纏向遺跡が広がり、従来から大和政権の成立に関わった地域として関心がよせられていた。

墳丘の全長は80m、周囲には周壕を巡らしている。後円部中央には我が国最初の「石囲い木槨」が認められ、注目を集めている。その内部には、コウヤマキ製の長大な割り抜き式木棺が収められており、古墳の遺骸は、木の棺、木の部屋、石の部屋というように三重に包まれていたのである。こういった古墳は従来、例のみない形式で、木棺の底に引かれたと、思われる水銀朱が今もなおはっきり認められ、後漢の作とみられる画文帯神獸鏡とよばれる鏡が副葬されていた。古墳の築造年代は箸墓古墳より古く、3世紀中葉

と発表されているが、木棺片の放射性炭素の年代測定では、3世紀前半に遡る数値が出ており、それはまさに卑弥呼生存の年代である。従来、箸墓古墳の築造年代は3世紀末ないし4世紀初頭といわれ、卑弥呼の年代と半世紀の差があり、その墓説を否定されていたが、築造年代の見直しの可能性も予測され、その結果は邪馬台国大和説を裏付けることにもなりかねない。又、古墳内部に並ぶように、三百年位後の年代に築造された横穴式古墳が発見され、その形式から6世紀頃のこの地方の首長の墓というような予測もできるという。

正式の調査を終わらないと正確なことはいえないが、この最古の前方後円墳は多くの歴史的な謎を秘め、新しい古代史を決定づけるものかもしれない。

次に、「飛鳥の亀型石像物」(近鉄橿原神宮駅からバス10分飛鳥大仏下車)を訪れる。村道建設のため、既に平成4年に階段状の石垣が発見されていたが、今回の調査でその石組の中央部に亀型とそれに続く小判型の二基の石像物が発見された。その亀のユーモラスな頭に古代人の豊かな感性が読みとれ、御影石で作られた石像の切削面の鋭さ、錘でこつこつと削って制作されたと想像される優れた技術に感心する。最近、小判型の南側に石組の湧水施設も発見され、その施設から小判型へ、そして亀型へと水が流れる仕組みが窺え、更にこの施設の南70mの丘の上に岡の酒船石がある。既に江戸時代には、本居宣長は「菅笠日記」でこの謎の石について検討をしている。酒を造るもの、薬を造るものなどの説はあったが、実体は不明であった。現在の処、これらを一体として水を流す祭祀の施設であろうとの説が有力である。「日本書紀」斉明天皇二年の条に「復、嶺の上に両つの榎の樹の邊に、觀を起つ。號けて兩榎宮とす。・・・時に興事を好む。迺ち水工をして渠穿らしむ。香山の西より、石上山に至る。

舟二百艘を以て、石上山の石を載みて、流の順に控引き、宮の東の山に石を累ねて垣とす。時の人誇りて曰はく、狂心の渠、功夫を損し費やすこと、三萬餘。垣造る功夫を費やし損すこと、七萬餘・・・。」と述べられる施設に該当するものであろう。天理の傍から運んだと思われる凝灰岩の石が、飛鳥川の河原の石と階段状に組まれている。

何故、斉明帝は狂心の渠との誇りをうけながら、多くの労力を費やし施設を建造したのであろうか。斉明帝の4年、5年、6年と蝦夷を討つための兵船を奥州に派遣したことが「日本書紀」に記され、7年には百濟の王子からの要請を受け、自ら新羅を討つべく、正月6日、西征の旅に船出している。「万葉集」に記される歌は、帝の戦に向かう心を高らかに歌い上げたものとされている。しかし、7月24日に福岡の朝倉宮で亡くなり、意志は果たせなかった。この壮大な祭祀施設は神に戦の勝利を祈り、倭の国の発展を祈願する為のものであろうか。又、「日本書紀」に皇極帝が日照り続きに雨を降らしたという記事があり、シャーマン的な性格をもったと解されている。さすれば神の託宣を受けるために壮大な祭壇を必要としたのかもかもしれない。老齢を推して、重詐したのも、北に蝦夷、そして朝鮮半島における新羅や背後の唐の脅威、まだまだ大和政権の基盤は脆弱であり、呪術的要素が必要とされたのではないか。中央集権国家を作り上げた大和政権にとっても、そういった要素を必要とした事実を物語っているのかもしれない。発掘された飛鳥の石像物は「日本書紀」という歴史書の記述を証明するとともに、古代国家の事情をも予測させる、重要な発掘だといえると思う。

以上二つの遺跡・遺物の発掘から、古代史を推定してみた。調査中なのでまだまだ先の発展も期待されるが、これらの発掘によって古代史が少しずつ鮮明になっていくことは興味深いものである。

(4ページから続く)

一方、現役を引退した「宗谷」は現在東京品川にある「船の科学館」前の棧橋に係留され、いつでも見学できるようになっている。船内を一巡しても、40年前この船に2年間乗船していたことがどうしても思い出せないので不思議に思っている。



## エッセイ



## 放送大生の好奇心は旺盛か？

坂井 素思

放送大生について、「好奇心が旺盛である」という定評がある。面接授業での質問が他の大学よりも圧倒的に多いところに顕れている。また、卒業研究のテーマがバラエティに富んでいるところにも見ることができる。このように例を挙げれば、かれらの喜々とした顔がありありと浮かんでくる。放送大生のなかに実に様々な好奇心が見られることはまちがいない。

好奇心といえば、ふつうは子供の専売特許であるかのように思われている。「子供のような好奇心」と形容されることが多い。事実、若いときの好奇心が高じて、学問の世界に入っていき先生方の話をよく聞く。だから、昆虫学者ファーブルが学者人生モデルの最適例として挙げられるのは、すごくよく理解できる。純粋な好奇心が出発点となり、途中飽くことなき好奇心が必要で、直線のように無限に導くような好奇心こそ尊ばれることになっている。

たしかにその通りだが、それでは

放送大生には当てはまらないのではないかと、とにわかにクレームが付きそうである。茶化しているわけではないので誤解しないでいただきたいのであるが、放送大生の多くは決して若くはないし、そして人生経験が多いので、これもまた決して、直線的ではないし必ずしも純粋な人でもないと思われる。しかしそれにもかかわらず、依然として「放送大生は好奇心旺盛である」と噂される。

わたしは、ここではじめて好奇心ということの概念を変えざるを得ない事態に立ち至ったのである。つまり、好奇心は子供に特有なものではなく、老いてなお盛んなものであり、直線的でなくむしろ曲線的な好奇心であり得るし、いわば「いぶし銀」の如く的好奇心が、放送大生には存在すると思われるようになったのである。金ぴかではなく、奥深さを秘めた輝きの好奇心である。

いぶし銀で思い出したが、英語で好奇心は *curiosity* と言い、この *curio* には骨董品という意味があ

る。英国ディケンズの小説に『*Old Curiosity Shop*(骨董屋)』というものもある。つまり、好奇心はふつう「未知の世界」へ向かって発揮されるものと考えられているが、この骨董品の意味に顕れているように、じつはむしろ「既知の世界」へ向かって発揮される場合も多いことを知ったのである。また、*curio* は、*care* につながり、「注意深い」という意味も含まれているらしい。

さて、長くなってしまったが、ここでようやく今回言いたかったことに行き着いたようである。じつはここで、経済学者ヴェブレンの言葉を紹介したかったのである。それは、*idle curiosity*(怠惰なる好奇心)という言葉である。*idle* というのは、怠け者で役立たずという意味であり、ふつうは好奇心とは結びつきようがない言葉である。ところが、放送大生の「好奇心」に照らせば、たちどころにその意味が明確になると、わたしには思われる。勿論放送大生自身が *idle* なのではなく、ここでの *idle* は、おもいきり回り道をしようということであり、紆余曲折を楽しみながらの好奇心を発揮することを指している。ところが、近代になって科学技術がこの好奇心を利用し始めるようになると、にわかに直線的で、役に立つ好奇心が台頭することになってしまったのである。このように、今日では好奇心は怠惰なものだということは、決してほめ言葉でも教訓でもないのであるが、しかし厳然たる事実として考えると、今日であってもやはり真の意味においては、好奇心とは人生を半ばして、そのあとにやっとわかるようになる道楽の心境のひとつと考えるとよいのではなかろうか。たとえ皮肉に聞こえようとも、あえてわたしはここで、「放送大生の好奇心は怠惰であれ」と言いたい。そしてこの意味で、わたしは現在でも放送大生の好奇心は非常に旺盛であると考えているのである。

## 学生団体・サークルのお知らせ

### 放大きながわレク・サークル

平成12年度は活動の幅を広げ、ターゲット・バードゴルフの練習を定期的に行ない、放大きながわの学生及び地域の人達に、ターゲット・バードゴルフの楽しさを広めたいと計画を立てた。

5月から毎月一回第4土曜日に、屏風ヶ浦小学校の校庭を借りてターゲット・バードゴルフの練習を始めた。レクサークルの活動計画は下記の通りである。

1. バトミントン：毎週火曜日 18時～20時 大岡小学校体育館
  2. レクダンス、フォークダンス：毎月曜日、第二、第四火曜日 13時～15時 神奈川学習センター
  3. ターゲット・バードゴルフ：毎月第四土曜日 9:30～12:00 屏風ヶ浦小学校校庭
  4. ターゲット・バードゴルフ：年4～5回（日曜日）神奈川県ターゲット・バードゴルフ協会、神奈川県レクリエーション協会主催の事業へ参加
  5. ターゲット・バードゴルフ：年2回、放大きながわレクサークル主催のイベントを県立三浦ふれあいの村で行なう。イベント名は、「第 回三浦ふれあいの村ターゲット・バードゴルフ交流・競技会」である。
  6. ウォークラリー、オリエンテーリング：年1～2回 横浜市主催の事業へ参加。その他：神奈川学習センターの前にある、大岡原っぱを借りて、放大きながわと地域の人達と一緒に、ターゲット・バードゴルフを楽しむ事を計画し、9月より実施出来る様に進めている。
- レクサークル主催のイベントである、「第四回三浦ふれあいの村ターゲットバードゴルフ交流・競技会」は、平成12年7月2日（日）開催予定である。レクサークルの会員は、7月1日（土）～2日（日）一泊二日の日程に参加し、2日に行なわれる交流・競技会の準備をし、当日は、ス

タッフとしてそれぞれの役割を担うことになっている。一泊二日に参加した会員は、体育実技として、7月1日も練習をするので、12時間履修したことになる。（昼間5時間×2＝10時間、夜のレク活動2時間）レク活動を楽しみながら、地域の人達とのコミュニケーションをとりつつ、体育実技の単位が取得できる、放大きながわレクサークルの会員になりませんか。

連絡先：中島博子

TEL & FAX: (0467-83-8203)

レク・サークル活動報告：  
「文明開化ウォークラリー」

デミヤギアカカワ  
カリナハツエ

平成12年5月21日に第17回全国一斉ウォークラリー大会が行われました。題名のとおり参加者全員が色々なクイズに答えながら7キロメートルもの道のりを歩かなければなりません。参加者は放送大学のレク・サークルのグループとか家族のグループとか様々でした。午前9時、参加者が立野小学校に集合し、ウォークラリーのための地図をもらいました。その地図はとても変わっていて右、左や階段のような記号だけで記されていて、場所の名前はひとつも書かれておりません。私には、クイズだけでも大変なのに、ましてやこの地図では、無事にゴールにつくかどうかたいへん不安でした。とりあえず参加者はグループに分かれてウォークラリーに出発しました。しばらく進むと道がいくつかに分かれていました。グループの人達は、それぞれが違う方向に行こうとしていたので、私が方向を指示しました。するとその道が間違っていて、私たちは迷子になってしまいました。でもこの時、先輩の方が道を教えてくれて、チェックポイントに無事たどり着くことがで

きました。私はみんなに迷惑をかけてしまい心苦しいところだったので、無事につくことができ「本当に良かった」と気持ちよく言うことができました。やはり、経験のある方の意見は大事で人生の中でもつねに参考にしなければならないのだと改めて思いました。私は先輩方に習って色々な勉強をしていきたいと考えております。たくさんのお事をこれからも教えてもらいたいと思います。そして、このように経験をつんだら、今度は私が次の世代に教えることができればうれしいと思います。

今回、体育実技の単位をとる目的で参加しましたが、それも含めて、日常生活と異なることをして、心の休息をとり、リフレッシュすることができました。最後には、ゴールして皆ともいっそう仲良くなりました。次回の三浦ふれあいの村で行われるレク活動でも、多数の方が参加されることを願っております！

### 放送大学同窓会

平成12年度に入り5月には総会と神奈川学習センター新飯田所長による講演会がありました。

これからの予定：10月には『横浜新発見』というテーマで「みなとみらい21地区」(桜木町)を中心に出かけたいと思っています。よろしかったら一緒にいかがですか。月日は10月22日(日)です。お問い合わせ、ご希望の方は西浦まで。Tel:045(781)4638

いろいろな方との出会い、心の潤いと運動不足の解消になるような行事をこれからも計画したいと思っています。同窓会有志によるサークル「Shall We Dance?」と「グランドゴルフ」の会は続けていきます。ダンスは西浦、グランドゴルフは金子までTel.045(621)3387

## 神奈川放友会

神奈川放友会は会員相互の交流の輪を広げて、親睦を図り、学習を援助する学生団体で下記のサークル活動をしています。

- ・行楽と研修を兼ねた旅行
- ・研修旅行（大学本部・図書館等）
- ・旅にいこう会（行楽地・名所史跡等）
- ・学習に関する情報交換
- ・会員相互の研究発表

4月には、放友会に60名近くの新しい仲間が加わりました。放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を広げて行くつもりです。

- ・行事予定（7月～12月）  
7月15日（土）月例会  
8月27日 フェスタ・ヨコハマ  
(人間研と共催)

- 9月16日（土）～17日（日）  
放送大学本部一泊研修
- 10月 入学者の集いで勧誘・  
歓迎会
- 11月19日 例会
- 12月16日 忘年会

照会/入会申込 連絡先  
〒235-0023 横浜市磯子区森1-15-  
1-810 吉田 昭二  
Tel/Fax 045-752-2783

## 人間学研究会

- 行事予定  
【例会予定】2000/07～10  
7/16(日) 「何故、私は江戸に拘わるのか」高橋さん  
8/27(日) 第14回フェスタ・ヨコハマ  
9/10(日) 卒業研究発表 鈴木さん  
「藤沢市における在宅介護について」

て」  
10/15(日) 謡曲を聴く

- 【歩きましょう予定】  
7/24(月)～7/25(火) 「富士登山」  
8/4(金)～8/7(月) 「南アルプス塩見岳登山」  
伊那大島～三伏峠～塩見岳往復～伊那大島  
9/22(金)～9/25(月) 「第14回おくのほそ道を歩く」  
一関～岩ヶ崎～岩出山～鳴子～尿前～堺田  
11/3(金)～11/5(日) 「第22回日本スリーデーマーチ」

【歩きましょう】連絡先：  
大出鍋蔵 0468(41)7937

## 第14回フェスタ・ヨコハマ (神奈川学習センター・学園祭)

目的：教職員と学生相互の親睦をはかり、交流の輪を広げる

日時：2000年8月27日（日）10時30分～15時

場所：神奈川学習センター・講義室及び講義室前空き地

### 記念講演：小尾信彌前学長による「20世紀宇宙論の5大トピックス - ビッグバン宇宙の発見と展開を軸に - 」

10時30分～12時30分（質疑応答を含む） 第八講義室

囲碁・将棋大会：第四講義室で9時30分～12時30分

俳句・川柳大会：参加者からそれぞれ一句を投句してもらい、参加者全員の投票によるコンテスト（交流会場に掲示）ビンゴ大会及び交流会：12時40分から講義室前の空き地でパ・ベキュ・ヤゲ・ムをしながら、交流会を開催致します。

参加券：行事に参加する場合は参加券が必要です。単位認定試験中に神奈川学習センターの一階ロビーで販売します。葉書での申込みも受付ますので、神奈川学習センターに御送付下さい。当日売りは他の学習センターの人に限りさせていただきます。一人一枚1000円です。同伴の小児は無料。多くの仲間の御参加をお待ちいたしております。

第14回フェスタ・ヨコハマ実行委員会

(神奈川放友会と人間学研究会で構成)

## 神奈川学習センターだより編集部

発行者：新飯田宏

編集者：五十嵐、遠藤、星、  
加藤、松本、皆川、吉田、  
斉藤、浅野、坂井

・今回の表紙と中のイラストは、前回に続いて好調な坂戸五葉さんに描いていただきました。また、学生の方の原稿を募集しております。

\*\*\*\*\*

### 放送大学学生募集

平成12年度第2学期

・出願受付：平成12年6月15日

～平成12年8月15日

・授業開始：平成12年10月1日

・資料配布：平成12年6月15日から

・興味のある方・入学を希望する方には、入学手続きや授業内容を記しました募集要項と授業科目案内を無料でお送りします。はがき又は電話で、神奈川学習センターへ請求してください。

\*\*\*\*\*

放送大学神奈川学習センター

〒232-0061

横浜市南区大岡2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

E-Mail:social@u-air.ac.jp